

首都機能移転県民フォーラム（次世代・夢フォーラム）の開催結果について

1. 開催の趣旨

本県民会議では、那須地域への首都機能の移転に向け、県民の皆様の理解と議論の深まりを図るため様々な広報、広聴活動を行っています。このような取り組みの一環として、首都機能移転についての意見や要望を広くお聴きするため、県内各地で県民フォーラムを開催しているところです。

今回は、次世代を担う子どもたちの声を受けとめる場として、小学生・中学生・高校生を対象としたフォーラムを開催します。ぜひご参加ください。

2. 日程

平成10年2月11日（水）午前10時から

3. 場所

ホテルフェアシティ11F 四季の間

4. 出席者

意見発表者：首都機能移転に関する作文・イメージ絵画募集における優秀賞募受賞者（平成9年12月13日）のうち、小学生・中学生・高校生

コーディネータ：馬場 信雄 氏（宇都宮大学名誉教授）

5. 結果概要（新聞意見広告から抜粋）

「作文・イメージ絵画コンクール」には、小学生から一般まで、計287点の応募があり、作文22点、絵画十点が優秀賞に選ばれた。この日は、受賞者のうち作文部門の小学生5人と中学生7人、絵画部門の小学生4人と中学生1人が参加した。

初めに、渡辺文雄知事が「二十一世紀の未来を切り開き発展させていくのは皆さんで、本県の将来は若い人に託されている。優秀賞には勉強させられる作品が多かった」とあいさつ。

栃木県議会首都機能移転対策特別委員会の吉谷宗夫委員長が「将来に夢を持つ君たちの話を聞き、大きな参考にしたい」。栃木県経済同友会の吉田保夫代表幹事代行は「皆さんの声に耳を傾けながら、首都機能移転の推進を訴えていきたい」と、それぞれ来賓あいさつを述べた。

馬場信雄宇大名誉教授がコーディネータを務めたフォーラムでは、絵画部門の小、中学生たちが大きなスクリーンに映し出された自分の作品を見ながら「新首都・那須」に込めた意図や視点などを説明。また作文部門の子供たちは、受賞作品を朗読して新首都像への希望や提言などを語りかけた。

これに対し、馬場氏が「国会議事堂はどこに造るの」「道路には自動車を通さないのかな」などと優しく質問。さらに「県が考えている構想と同じだね」「首都機能移転を自分の問題としているのは賛成だ」などと、子供たち一人ひとりと意見を交換した。

発表の途中、子供たちの意見に補足説明する形で同会議の田嶋進事務局長（県企画部次長）と最後まで同席した渡辺知事が発言する場面もあった。馬場氏は「いまの若い人たちは、と心配していたが、皆さんは立派な考えを持っており安心です。きょう発表された考えで次世代をしっかりと歩いてください」と締めくくった。

本県は1月16日、国会等移転審議会から首都機能移転先の調査対象地域に選ばれ、その直後の子供たちのフォーラム開催とあって、会場を埋めた約200人の一般参加者や教育関係者などからは盛んな拍手が送られた。

最後に、同会議の須藤揮一郎幹事長（県企画部長）が「首都機能移転で一番大きな影響を受けるのは次世代を担う方々です。皆さんは自然環境をどう守るかが心配でしょうが、21世紀は自然との調和が絶対に欠かせないテーマだと思います。これを無視して新首都づくりはできません。皆さんは、首都機能移転を自分の問題として捕らえており、本県への移転実現に向けて力を貸してください」と総括した。

- 作文 -

喜連川町立鷲宿小6年
小川亮一君「ぼくの描く未来の首都」

氏家町立氏家小6年
川崎真輔君「那須の未来を考える」

氏家町立氏家小6年
佐藤有希さん「新首都は那須へ」

氏家町立氏家小6年
西川有香さん「新首都は那須へ」

氏家町立氏家小6年
森島亮君「心の中の討論会『新首都は那須へ』」

鹿沼市立東中1年
皆木暢之君「首都機能移転に思うこと」

宇都宮短大附属中2年
西川由理さん「未来都市への開拓」

栃木市立東陽中2年
池田享弘君「新政治都市那須」

真岡市立山前中2年
磯野高宏君「僕が考える首都移転」

真岡市立山前中2年
中里恭洋君「僕たちの未来都市」

真岡市立山前中2年
柳智子さん「こんな那須になってほしい」

宇都宮市立豊郷中3年
保坂明里さん「緑の似合う国会議事堂」

-コメント-

〔馬場氏〕 発表の途中でお願いしたように、全国の候補地より那須のほうが広いのかどうか、また首都機能移転の国家的目的を田嶋県民会議事務局長と渡辺知事から説明いただきます。

〔田嶋次長〕 平たん部に国会をつくれる土地は那須が一番だと思います。あれだけ平たんで広大、緑に囲まれた所は他の県にはないと思います。

那須野が原公園のサンスタワーに登って見てください。那須野ヶ原が緑のじゅうたんのように広がっています。自然に優しい国会が造れると思います。

〔渡辺知事〕 なぜ首都機能を東京から移すのか。それは災害対策と一極集中の弊害を取り除くため、首都機能移転の最大の目的はこの二つです。

東京地方には七、八十年周期で大きな地震が起こるといわれ、あす大地震が起きてもおかしくない。政府機能がまひしたら一大事だから、災害のない所に移すことが必要です。人口過密都市の弊害や文化、学問などが東京に集中するという一極集中の弊害が頂点に達し、地方は人口が少なくなっています。

首都機能移転は国家的な大事業です。できあがるころ皆さんはもう大人になっているわけですが、本県もその国家的な大事業に参加して日本国全体のためにいい首都をつくりたいと、調査して那須がよかったら移ってきてくださいと国にお勧めしているわけです。

-絵画発表-

コーディネータの馬場氏は、自然や環境を大切にした五人の制作意図などについて、「よく描けていますね」と、子供らしい豊かな創造性と感性にあふれた作品を評価した。

そのうえで馬場氏は「那須にふさわしいサイロをイメージした建物や記念碑のような建物、また官庁のガラス張りの建物など、私たちが今まで気がつかなかったことを教えられました」と講評した。

また同会議事務局長の田嶋氏は「皆さんの絵画はビジュアルに訴えるものとして、パンフレットなどで十分に活用します。また那須の新首都像をコンピューターグラフィックなど三次元的に表す場合、上空から見た絵などは参考になると思います」と話した。

宇都宮市立富士見小5年

上沢亜希子さん・高野小百合さん

遠足で那須に行った時に見た豊かな自然をイメージして描きました。環境を汚さないために、移動には新幹線のほかロープウエーを使って、車にはなるべく乗らないようにします。

住みよい環境であれば、住んでいる人は気持ちがいいし、ここで政治や仕事をする人たちも、きっと澄んだ心で間違いのない仕事をしてくれると思います。

そして緑や花がたくさんあって、子供から老人まで楽しく生活できる首都であってほしいと思います。栃木県にこんな新しい町ができれば、住んでみたいと思いながら描きました。

壬生町立壬生小5年

鯉沼孝彰君

日本の中心の国会が栃木県にくるのは、大変うれしいことと思っています。そこで、那須の美しい自然を十分に生かした町づくりをしてほしいと思い、三日かけて絵を描きました。

新首都は、コンピューターなどの機械を多く使った町になるとはいますが、絵にあるように、いま残

っている那須地域の豊かで素晴らしい自然も大切にしてほしいと思っています。

那須連山を背景にして、真ん中にたくさん見える建物は、官庁の建物やそのほかいろいろなものです。

宇都宮市立富士見小 6年

田村教恵さん

私の那須のイメージは、山深く緑がいっぱいある所です。そこで新首都のイメージをどう描くか考えました。遠くに連なる那須の山々が見える所に、それに合った国会議事堂を描き、近くには牧場があって、サイロをイメージした建物が似合うかなと思いました。

建物は緑の並木で囲みました。近くの公園は、働いている人たちだけでなく、赤ちゃんからお年寄りまで楽しく過ごせるような公園にしようと思いました。いまある那須の自然を大切に、自動車がなくても済むような町ができればいいなあと思いました。

宇都宮短大附属中 3年

石丸喜規君

これが僕のイメージ首都です。那須に首都を持つことに際し、一番問題になるのはやっぱり自然との調和だと考えています。イメージの中では、東京とは違い自然をメインにした首都をつくるべきだと思って、記念碑のような建物も配して絵を描きました。

ガラス張りの建物が手前に多くなっていますが、これは国会議事堂とか諸官庁のつもりです。最近の政治は、不透明な部分がちょっと多いと僕は思います。だからガラス張りということで透明な政治、ガラス張りの政治をイメージして描いたつもりなんです。

- 挨拶 -

● 栃木県首都機能移転促進県民会議会長・栃木県知事 渡辺 文雄氏

昨年は、全国二十番目に人口二百万人達成という明るい話題がありました。四十七都道府県の十三都県で減少しているなか、最後の二百万人達成県という大きな意味を持っています。

こうした底力があり、未来に向かって発展の可能性を持った本県に、首都機能がきたら楽しいなあ、本日のフォーラムを開きました。発表者の作品は、首都機能が移ってくることに對する喜びとか夢、また不安や心配などの問題意識も率直に表現されています。

一月十六日の国会等移転審議会では、首都機能の移転先候補地を選ぶ調査対象地域に、本県を含む北東地域と東海地域、畿央地域が選定されました。今後、審議会が本県を含めた候補地の現状を調べにきます。

皆さまのご提案を参考にしながら、独自の調査・研究を踏まえて、本県ならではの新首都の在り方を提案し、那須地域の適地性を訴えたいと思っています。

● 栃木県議会首都機能移転対策特別委員会委員長 吉谷 宗夫氏

きょうは将来に夢を持っている君たちの話を聞き、それを大きな参考にして二十一世紀に本県がどのような形で伸びていくかを考える会議と思います。君たちは二十一世紀をしっかりと生き抜いていく諸君です。

皆さんの作文や絵を見ますと、国会議事堂の周辺に牛や馬、鶏がいたり林もたくさんあって、自然を大切にしよう、いまの国会議事堂には見当たらないものを配置しようという考えが随所に表れております。

オーストラリアの首都キャンベラは、シドニーとメルボルンがどっちに都をつくるかと競争したとき、うまくまとまらなかったために、中間地点の草原地帯に木を植えてつくられた都市であります。

まさに那須には木があって山があり、川があって自然がたくさんある。その自然を残しながら新しい町を皆さんの手でつくってもらいたい。これが私からのお願いであります。

● **栃木県経済同友会代表幹事代行 吉田 保夫氏**

栃木県経済同友会は、平成二年に本県への国会誘致を提唱し、今日まで首都機能移転問題に取り組んでいます。国会移転の意義を大きく分けると、国土づくりと社会経済システムの改革があります。明治以来、すべて東京に集中してきた体制を改め、自由で活力ある分権型の国づくりの契機にしようというものです。

本県への移転が実現すると、各省庁や附属機関の移転はもちろん、研究機関やサービス関連の新しい産業の集積も期待できます。そうすると、インフラ整備が急速に進むほか、人口増加や人材の流入も図られ、そこに新しい需要が起こって人や技術、文化などの交流も活発化して本県のさらなる発展が期待できます。

移転先を選ぶうえでは、受け入れ地域から歓迎されることが条件になると思います。

それにはこの問題に一人ひとりが関心を持ち、議論に参加して理解を深めることが大切です。

喜連川町立鷺宿小6年

小川亮一君

「ぼくの描く未来の首都」

首都機能の移転地が、栃木県的那須地域になったとしたら、こんな都市であってほしいと思います。

まず建物や道路は、周りの環境への影響を考えて造るということです。理由は今の首都・東京を見ると、ヒートアイランド現象が起こって環境へ悪い影響をおよぼしているからです。

だから移転する土地の自然や動植物の分布、地形、気候、そこに住む人たちの生活などを詳しく調べることが必要だと思います。

次に電気自動車などの環境に影響のない自動車や電車、モノレールなど多くの人を一回で運べて、渋滞を防ぐことのできる物を多く取り入れてほしいです。

また人が集まればゴミもたくさん出て、処理施設も必要になります。そこに住む人たちによるゴミを減らす工夫やリサイクル、ゴミの分別などの住民達による活動も必要不可欠です。

新しくできる首都は、地球上の自然破壊や温暖化などの問題を解決でき、世界のあらゆる国の手本になるような未来の首都であってほしいと思います。

〔馬場氏〕

ヒートアイランドは、太陽の光がアスファルトに当たったり建物から熱が出ることで、地上から放散される熱が抑えられて温度が高くなる現象です。

那須の首都はそうようになっては困るという主張ですね。世界の手本となるような首都を那須につくるべきだという話に、大変感じ入りました。

氏家町立氏家小6年

川崎真輔君

「那須の未来を考える」

やっぱり那須の自然はすばらしいなあと思った時、ふとあることに気がつきました。みんなが本当に求めている首都は、大きな建物や道路があるだけではないということです。

生活している中で、ほっとするような心の「豊かさ」を実感できる多様な選択肢のある社会の実現こそ、首都には必要なことなのです。首都を那須に移転することが、未来に向けての社会を築くための方法の一つだと思います。

便利さと心の安らぎの両方の「豊かさ」を備えている那須は、今後の新首都として一番最適な場所だと思います。自然を壊さないで、人と自然が一緒になれるように、整備を進めてくれたらうれしいです。

僕が思い描く首都のイメージは、政治を行う建物の周辺にみんなが楽しく遊べる公園、緑いっぱいサイクリングコース、キャンプ場、アスレチック、魚がたくさん住める川などが整備されていることです。それから、全国のおいしい食べ物が食べられるレストランも造ってほしいです。

〔馬場氏〕

豊かさはゆとりを持つことだ、という考えは立派です。北海道から沖縄まで全国のおいしい物が食べられるレストランを造れということは、私も大賛成だ。国会議事堂より大きくなるかもしれないが、そういうレストランができるように私とお願いしましょう。

氏家町立氏家小6年

佐藤有希さん

「新首都は那須へ」

「新首都が那須へ移転する」 - そんなニュースを聞いたことがあります。私はこの問題を真剣に考えるべきだと思います。

新首都が那須へ移転される場合には、その緑はどうなるのでしょうか。那須が有名になれば見物に来る人も多くなると思います。そうすると車から出る排気ガス、ゴミなどで緑が汚れてしまうと思います。

私は新しい首都がくる前に、もっと自然について考えた方がいいと思います。新首都が那須にくることは賛成ですが、那須の素晴らしい森林を汚さない方法を考えてほしいです。

那須は自然の素晴らしさはもちろん、災害などが少なく、東京からも新幹線で一時間程度の距離にあるため、新首都がくるにはとても最適な場所です。新首都が那須へくれば、ゆとりが持てる、そんな本当の豊かさが実現しそうです。

私は、新首都が那須へきたら、新しい未来がやってくると思います。そして栃木の素晴らしさを見つめ直す、自分たちを見直す機会もくると考えています。

〔馬場氏〕

新首都が那須にくれば、生活の上で必ずゆとりもできるんだという話で、私も感心して聞きました。

作文に書いたことが全部かなえられれば、佐藤さんは那須に首都がくることに満足できるんですね。

氏家町立氏家小6年

西川有香さん

「新首都は那須へ」

もし国会が移転してくるのなら、日本の人たちに栃木県のいい所を分かってもらわなければなりません。なぜなら、栃木県以外にも、国会が移転する場所がいくつか挙げられているからです。でも那須野ヶ原のような広い土地は、他の県ではあまりありません。

国会がくれば、その周りに十万人ぐらいの町ができるそうです。交通網も発達するし、それと同時に大きな会社や工場ができると思います。若い人たちの働く場所が増え、活気づいた町づくりができます。それに大きなホールができれば、コンサートや講演会を開くことができ、文化や教育も発達すると思います。

新首都が那須にくることで那須町の人たちだけではなく、周りの市や町、氏家町の人たちの生活や文化が豊かになり、自然が壊されることなく落ち着いた暮らしができるようになると、もっといいと思います。

昔から住んでいる人たちとの交流も忘れてはいけません。新しく住む人たちにはその土地の歴史と文化を理解してほしいです。

〔馬場氏〕

新しく来る人たちには那須の歴史や文化をよく理解してもらわないと困る、という見方は新しくて立派です。逆に昔から住んでいる人たちも、新しく来る人たちに優しくしてやらないと困るね。

名乗りを上げている全国の候補地より、那須のほうが広いということですが、あとで県民会議事務局に聞いてみます。

氏家町立氏家小6年

森島亮君

「心の中の討論会『新首都は那須へ』」

「新首都が那須にきたら、今の那須の自然は一体どうなるんだろうねえ」 - 。僕の母は最近、このようなことを漏らしていた。今の東京を見ればその意図は一目りょうぜんだ。

これに対しては、那須に合った首都機能をつくれればよいではないかという考えが持ち上がる。例えば住宅等は他の所に造り、那須に機能のみを移せば住宅問題が解決できる。またスイスの高山の町のように車は必要最小限、規制されてもよいと思うときもある。

しかし、首都としての建造物等を全て移すと、多少の自然は壊されてしまう。だったら政治用の建物だけを移して、その都市としての役割だけを東京に残す。問題は国民全員がこの計画に賛同し、協力するかどうかではないだろうか。

僕は、首都は那須にきてほしいか？という問いに、「はい」という形で結論を出した。今度は、那須にはどんな首都がよいか？と考えてみる。国会議事堂を栃木に移すのなら、新しいデザインを多くの人から募って建てるとよいと思う。

〔馬場氏〕

住宅は那須以外の所に造って、那須には官庁の建物だけを造るとするのは立派な意見です。渡辺知事も森島君と同じ考えだそうだから、安心だね。

スイスでは交通規制しているということですが、日光の小田代ヶ原や尾瀬沼など日本でも規制しているところがある。自然保護のためにどんな交通規制をしているか今度、調べてください。

鹿沼市立東中1年

皆木暢之君

「首都機能移転に思うこと」

国では、2010年までに十万人規模の新都市をつくる計画だったらしいが、候補地の決定時期や都市建設の着工年等もはっきりしないようだ。それだけ難しい計画なんだと思う。僕の考えも半分半分だ。

もちろん第一番目に自然が破壊されることには大反対である。でも国の中心的な役割を果たす首都機能移転により、人が集まればその場所は発展していくに違いない。だからといって、那須に首都機能が移転してくると正式に決まったその時、東京とは違った環境をつくっていかなければ進歩はないと思う。

単に同じ形のものを別の場所に移すということではなく、今ある自然はそのまま大切に守ったうえで、それを土台に今までとは違った自然と人間とが共存できる都市として文化や技術、その他いろいろな面で発展していけるよう、計画の段階でよく考えてほしい。

ゆったりとした気分になれる、豊かな心が持てるような都市づくりができるのなら、那須への移転にも百パーセント賛成したい。

〔馬場氏〕

知事さんや県民会議事務局から構想を聞いて百パーセント賛成できますか。90%ぐらいかな。でも100パーセントにする責任は皆さんであり、残りの10%を持ち上げるのは君の仕事でもある。だから勉強して、立派な首都をつくるように努力してください。分かってくれますね。

宇都宮短大附属中2年

西川由理さん

「未来都市への開拓」

私は以前、アメリカに五年間住んだことがある。コロラド州やユタ州を旅行で巡り、その自然に魅了された。またカナディアンロッキーではその壮大さと美しさに驚いた。そんな光景を頭の中に秘めながら那須に戻ってきた時、美しさにおいてはコロラド高原にもひけをとらないと思った。

首都が移る時とは、ある時代からある時代へと意味のある変化を遂げる時である。その変化の実現には広々とした美しい土地、かつインターナショナルな雰囲気漂わせている開放的な土地が必要であろう。私は明治初期、近代日本を目指す人々が開拓精神とともに歩んできた地に、その精神を引き継ぎながら二十一世紀の未来都市を築いていくことに賛成だ。

水の確保や災害対策、ゴミ処理、自然保護など検討すべき問題はあるだろう。これらは国会が移転してこなくても考えねばならないことだ。首都機能移転対策の中で自然保護をきちんと位置づけ、都市と自然の調和を求めていく方がよい結果が得られると思う。

〔馬場氏〕

西川さんは明治の元勲の那須野ヶ原に対する思いや歴史を大変勉強されているようです。

長野冬季五輪スピードスケート男子五百・の表彰式で、優勝した清水宏保選手が二、三位のカナダ選手と抱き合ったシーンと西川さんの作文が重なり、体の小さな清水選手が那須野ヶ原で、カナダの選手がカナディアンロッキーかと想像しました。

栃木市立東陽中 2 年

池田享弘君

「新政治都市那須」

2 年の世界最大の S 空港。待つほどもなく、リニアモーターカーが滑り込んでくる。走行中も停止時もほとんど騒音はない。

「次は国会議事堂前」。何と国会議事堂が木造になっていた。この方が昔のものより日本の風土にピッタリ。国会議事堂の前には、皆が自由に集うことのできる芝生や水辺のある広場などがあり、後方には那須岳などの那須連山がある。

真っ直ぐに整備された道路。“キューブ”という移動体が走っている。この小さな乗り物は電気で動いている。これなら渋滞は起こらないし、排気ガスも出ないから自然環境にも負担をかけずに一石二鳥だ。

中央官庁なども平地林に埋もれるぐらい水と緑に囲まれているし、周辺にはレストランや商店街、スポーツ施設などもたくさん。やっぱり住宅街も同じく緑あふれるニュータウン。

これが僕の理想の首都です。数年後、本当に那須にこんな首都ができれば、最高にうれしいし住んでみたい。これができるのは那須しかないと思います。

〔馬場氏〕

新しい政治都市の那須を具体的に想像してくれて、ありがとう。

2月8日付の下野新聞「日曜論壇」に、池田君と同じような発想で的場哲朗白鷗短大教授が「大胆に環境都市構想を」と書いています。的場先生の構想と、池田君の構想がよく似ており、本当に立派な考えだと感心しました。この論文を読んでさらに構想を練ってください。

真岡市立山前中2年

磯野高宏君

「僕が考える首都移転」

「首都を那須に移転なんて自然破壊の何ものでもない。絶対に反対だ」。これは少し前までの僕の考えだった。社会の授業で、首都を那須に移転させる計画があると聞いた時、那須イコール東京という考えが頭の中から離れなかった。

しかし現在、東京は政治や経済、文化の全てが集まってしまって身動きがとれない状態になっている。大きな災害が起これば、たちどころに日本の中核機能がまひしてしまうことになるという。この状況から抜け出すために、首都移転は避けられないのである。

ではどうすれば、自然と共生した首都「那須」ができるのだろうか。一つ目は自然を最大に残すことである。二つ目は、造るものは必要最小限にすることだと思う。三つ目は進んだ技術をフルに使うことだ。

移転都市の最大の利点はこれから造るということである。良くするのも悪くするのも考え方一つで決めることができる。二十一世紀は僕たちの時代だ。新しい時代を築くためにも真剣に今を考えていきたい。

〔馬場氏〕

大災害が起こったら中核機能がまひするので移転が必要、という広い視野に感動しました。移転の国家的目的は渡辺知事から後で伺います。

進んだ技術の例でインターネットなどを挙げたが、今年のフォーラムでは燃料電池を使うという意見もありました。

真岡市立山前中2年

中里恭洋君

「僕たちの未来都市」

僕たちは、社会の授業の中で首都移転問題について討論し、意見がいろいろ出て深く考えることができました。僕は賛成でした。

良い面があれば悪い面も必ず出てくるように、首都を移転すれば必ず問題は発生すると思います。でも問題点が分かっているからこそ、今の最新技術を用いて何とかクリアしていくと期待しているからです。

僕が思い描く都市は、町には電気自動車はもちろん無人で走るバス、電車が行き来し、それらは磁気之力や電気で走り環境に悪影響を出さないものです。また町は太陽エネルギーや風力などの電力を使います。

昔、漫画や小説の中だけだと思っていたジュール・ベルヌや手塚治虫の物語は現在、実現しています。そんな夢も、それを目指すことによっていつかきっと実現できると思います。

夢を持って開拓にあたった那須に、大きなチャンスがやってきているのです。このチャンスを生かし、人々が理想とする自然の豊かな未来都市を建て、日本の発展を願いたいです。

〔馬場氏〕

問題点が分かっているからこそ、最新の技術で克服できるはずだという積極的な意見です。問題に本気で立ち向かっていくかどうかは大切な考え、人生の分かれ目ですね。

ジュール・ベルヌと手塚治虫の作品で、首都機能移転の夢を描くうえで参考になるものがあったら、県庁内の首都機能移転情報センターに教えてください。

真岡市立山前中2年

柳智子さん

「こんな那須になってほしい」

私のわがままを聞いてください。もし首都が那須に移転してきたら美しい自然を守ってください。次から次へといろいろな建物を建てて自然を少なくしないでください。栃木の人の優しい心を守ってください。

建物を自然の中に建てるなら、自然に溶け込めるような柔かな感じの建物にしてください。自然の元気がなくなってしまうと、一緒にいる私たちも次第に悲しくなって、元気がなくなってしまう気がします。

もう一つの東京をつくらないでください。今の東京は空気も汚れていれば、ゴミもいっぱいになっているし、騒音もうるさいし環境も破壊されているため自然もありません。悪いことがたくさんある日本はいやです。那須には問題が起こることがないような町をつくってもらいたいです。

新しい首都がくることは栃木県の将来、私の将来に大きくかかわってきます。他人事ではありません。首都移転について身近に感じられるようになりました。私も小さなことから協力していきたいと思います。

〔馬場氏〕

もう一つの東京を那須につくっては困るということで、私もその通りに思っています。

県民会議で制作されたVTRを見て、いろいろ考えたという話ですが、発表された以外に、何か思いに残っていることはありませんか。もっといい感じ、考えが出るかどうかもう一度、見直してくださいね。

宇都宮市立豊郷中 3年

保坂明里さん

「緑の似合う国会議事堂」

(昨年)八月三日、友達二人と両親の五人で国会議事堂へ行った。彫刻も壁もいかにも日本の歴史を伝えているようだった。しかし威厳がある一方で古いあまりに、大地震でも起きたら...と考えてしまった。そのためにも国会を移した方がいいと心から感じた。

国会が那須にあればたくさんの事が変わると思う。栃木県には大企業も移ってくるだろうし、仕事も増えると思う。過疎化が起きているところに子や孫が帰ってくれば、お年寄りも安心して生活できるだろう。まさに一石二鳥、いや一石百鳥ぐらいである。

観光客の多い那須ではあるが、自然が破壊されて草木がなくなったり、川が汚染されたりという変化があまり見られないのは、人々が自然を大切にしようと思うからだ。新都市ができて、那須は今までと同じ自然あふれる所だと思う。

国会議事堂を那須に造るとするのは、「自然を破壊する」のではなく、自然と共存するために「自然を借りる」というふうに考えたいと思った。

〔馬場氏〕

自然を借りるという気持ちが大切という話ですが、私もそう思う。われわれは自然に保護されて生きており、人間が自然保護と言うのは思い上がり指摘する先生もいます。

首都機能が移転してきても那須の自然が汚されることはなく、おおらかな気持ちで対処すればいいという考えに、私自身も勇気づけられました。